

---

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 高 柳 孝 博 君

○議長（斉藤 重君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、高柳孝博君。

（5番 高柳孝博君 登壇）

○5番（高柳孝博君） 通告に従いまして、質問いたしたいと思えます。

いままさに平成25年度からは新しい総合計画に基づいて町の行政がなされることと思えます。総合計画におきましては、3カ年の実施計画を作られまして、平成25年度の事業計画への展開がなされていることと思えます。

したがって、私は、総合計画から実施計画、そして、事業計画への展開について3つの点で質問したいと思えます。

1つは、プロジェクトと申す3つの重点施策の実施計画目標、この指数と平成25年度の事業計画の展開がどのようになっているかであります。

2つ目は、高齢者が増えていく現在の松崎町、そういったところをとらえまして、高齢者の雇用促進の実施計画あるいは事業計画はどのように考えられているのか、3つ目は体験型観光、そして、6次産業化ということをも第4次総合計画の時も進めて来たわけですが、第5次総合計画においてどのように取り組もうとしているかであります。

以上、3点について壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 高柳孝博議員の一般質問にお答えします。

総合計画の実施計画と平成25年度の事業計画への展開は。

①「3つの重点施策の実施計画目標、指数と平成25年度の事業計画への展開は」についてであります。

松崎町第5次総合計画では、平成25年度から平成29年度までの5年間で特に力を入れて行う重点プロジェクトとして、「光り輝く人づくり」「安全・安心の住みよいまちづくり」「地域の魅力・資源活用」の3つが設定してあります。

それぞれの指数や事業量につきましては、関連する基本計画や実施計画の中で可能なものについては、お示しをいたしておるところでございます。

1番目の「光り輝く人づくり」では、スポーツ・健康づくり・介護予防の促進、定住促進、ま

ちづくり委員会の活動充実を目標とし、子どもを対象としたスポーツ大会開催・団体活動の支援、生涯を通じた健康づくり事業としての各種検診、まちづくり委員会開催に対する費用などを予算措置しております。

2番目の「安心・安全の住みよいまちづくり」では、地域福祉の充実、防災・減災体制の強化を目標とし、訪問給食・ボランティア配食サービス、老人クラブ育成事業などの予算措置をするとともに、地域住民が主体となった地区サロン活動も引き続き展開してまいります。また、災害対策施設（津波避難タワー）整備、防災資機材（デジタル移動無線）整備、庁舎自家用発電施設改修事業などを予算措置しております。

3番目の「地域の魅力・資源活用」では、遊休農地の活用・鳥獣被害対策、6次産業化の推進、全町まるごとふるさと自然体験学校の推進があり、耕作放棄地対策事業や農業後継者対策事業、鳥獣被害対策事業などを予算措置しております。

②「高齢者雇用促進の実施計画と事業計画はどのように考えるか」についてであります。

昨年12月の議会定例会の高柳議員の一般質問において、超高齢化社会に合った施策のなかで高齢者の雇用の必要性のお話もあったわけでございます。

高齢者の雇用としては、松崎町シルバー人材センターが考えられます。現在、シルバー人材センターの会員は、60才以上で68名が登録され、平成23年度の公共・民間を合わせた契約実績は、758件、3560万円余となっております。町では、平成25年度予算において労務委託費1842万円余を措置しており、高齢者の雇用に少なからず寄与しているものと認識しております。

また、「道の駅」花の三聖苑のかじかの湯では、地域の高齢者32名（男性12名・女性20名）が受付や清掃業務にあたり、花の三聖苑の運営にご協力をいただいているところでございます。

なお、女性グループで頑張っておられる「蔵ら」さんのように、設置目的の一つに「高齢者の生きがい・働き場づくり」を掲げられ、自ら取り組んでいる事例も見られます。

徳島県上勝町の葉っぱビジネスのような高齢者の取り組みということは、簡単にはできないことかとは思いますが、私が推進する「全町まるごとふるさと自然体験学校」の体験指導者として、これまでの知識や経験を活かしていただき、生き生きと元気に働いていただくことを考えております。

松崎町は、現在高齢化率が37.5%で、確かに高齢者の力に依存する部分は、多いのかもしれませんが、しかし、そうは申しまして、高齢者以外の雇用の機会を増やしていかなければならないことも、事実でございますので、産業の振興を図り、雇用の拡大を図ってまいりたいと考えております。

③「体験型観光と6次産業化への目標指数と目標達成への取り組みは」についてであります。

総合計画の「地域が一体となった産業が盛んなまちづくり」の中では、自然、景観、文化、歴

史、産業を生かしたグリーンツーリズムや「全町まるごとふるさと自然体験学校」などの体験型観光の推進、農林水産物の加工や提供などの6次産業化の促進が上げられています。

体験型観光につきましては、平成22年度から（財）松崎町振興公社に委託し、町や関係団体等と連携し、グリーンツーリズムを推進してきております。特に、子ども農山漁村交流プロジェクト事業では、誘致に向けたパンフレット作成や小・中学校への誘致活動、モニターツアー、安全管理研修会を実施し、プロジェクト事業以外でも体験メニューの実施、ジオガイド研修会、ジオサイト見学会などを開催しております。

目標指数を置くことが、難しいものもございますが、小・中学校への誘致活動を重ね、松崎への子どもたちの修学旅行・体験旅行を増やすこと、体験メニューとそれに関わる指導者を養成すること、伊豆半島ジオパークを関係市町、団体と連携して推進していくことなどを通じて、平成23年度の観光客数34万5263人を、目標指数として設定した5年後の平成29年度、40万人、10年後平成34年度、50万人を上回るよう努力してまいりたいと思います。

6次産業化の取り組みにつきましては、農業振興会後継者育成部会による耕作放棄地を活用したレモンガラスの栽培・商品化、農業再生協議会によるハーブ実証栽培による加工品の試作や試験販売、また、松崎町商工会では、よもぎの商品開発、販路開拓に向け、委員会を立ち上げ、調査研究が行われているところでございます。

これらの取り組みは、耕作放棄地解消とともに新たな特産品による農業振興にもつながり、松崎ブランドとして今後多くの商品が開発されるよう、町としても引き続き支援してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○5番（高柳孝博君） 一問一答でお願いします。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○5番（高柳孝博君） まず、1点目の3つの重点施策の実施計画目標、指数と25年度事業計画の展開ですが、まさにいま町長から回答があったのは、総合計画の中で、プロジェクトとしてやらんとすることを申し述べられているわけですが、そういった中で、例えば、農地を守り、活かそうというひとつの資源の活用とか、そういったのがあるんですが、そういった中に新しい施策とか、そういったものも入っています。

それらが、実際に盛り込まれているかどうかということになるわけですが、予算の審議はその後であるからということですので、まず、1点お聞きしたいのは、総合計画の時にもお話させていただいたわけですが、体系図を作ってわかりやすくしてほしいというお話を申し上げまし

た。

実際に基本計画のところまでは、出されていると思うんですが、実施計画はその後で作るからという回答でしたので、その後の実施計画そのものを今後作られるのかどうか、その点はいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 1月25日、議会臨時会におきまして、体系図というお話があったわけでございます。

基本計画の6本の柱に基づいて、それぞれ観光の振興・農林漁業の振興・商工業の振興等々ご説明させていただきましたが、それがちょっとわかりにくいというようなことがありまして、町民の皆さんに配布するダイジェスト版につきましては、その中で、じゃあ、観光の振興は何なのかということの中で、体験型観光の推進、資源の発掘等々、そういった項目を落とし込んだものを配布するというところで考えております。

その下につく実施計画につきましては、そこまでの細かいものは体系図の中にちょっと落とし込みができないものですから、そこは広報まつぎ等の中で、町長の施政方針あるいは25年度の予算の中で重点的なものはご説明をしていくところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 私もいろいろ町民と話す機会があると思いますので、その中でいろいろ話していきたいと思います。

○5番（高柳孝博君） 総合計画の作り方を見ますと、基本方針というのがあって、基本計画があって、実施計画となっているわけですね。これは実施計画と明らかに繋がっているということですので、そのあたりは実施計画は3年でやる部分ですので、細かいところは別として、何をやるかというところがわかるような体系図はできるんじゃないかと思います。

実際ほかの市町で作っているところがありますので、そのあたりを参考にいただければそんなに難しいことではないと思いますので、ぜひ項目を入れて、その関連というのを明確にしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 午前中に町長が施政方針ということでご説明をさせていただきました。6本の方針に基づいて25年度で実施する内容につきましては、ご説明をさせていただいているかと思います。

それらのものを記載したものは広報まつぎの方に載せさせていただきますので、その中で町民の皆さんにご理解をいただく、あるいは、町長が先ほど申しましたように、会合等に出向いた場合に町の考え方というのを話をしていくというようなことで考えておりますので、体系図の中で細かく落とし込むということまでは現在考えておりませんが、そういった別の形

のものの中でご説明をさせていただくということで考えております。

- 5番（高柳孝博君） 総合計画の中では結果系の指標というのが出ているわけですが、その結果系を達成するためには、プロセスといういわゆる施策というものがそれに適合していなければいけないわけですね。

適合しているかどうかというのを判断するためには、関連をしっかりとつけて、この施策でどれくらい結果系が出せるかというのがしっかりしないと、この施策がいいかどうかかわからないと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

- 企画観光課長（山本 公君） 例えば、観光を取りますと、いろんな施策がございますが、確かにこの中に具体的な指標ですべて落とし込めるわけではございません。

先ほど町長がご答弁させていただきましたけれども、落とし込めるものは落としてありますけれども、それ以外の例えばグリーンツーリズムの推進ということを取りますと、体験のメニューを増やせばいいのか、あるいは誘致の数を増やせばいいのか、そういったもろもろのものがございますので、それらを統合した中で観光客を増やしていく、そんな考え方でいかないとちょっとできないのかなと思っています。

それぞれ事業方向、内容も濃くして増やしていくということは当然やらなければなりませんけれども、一つひとつのもの全部を取り上げて指標に落とし込めるものではないということでご理解をいただきたいと思います。

- 町長（齋藤文彦君） この目標指数というのが5年後、10年後と出ているわけですが、高柳議員が言うように増加するために何をやるということは、このプロセスと効果というのがちゃんと目に見えるような形にできればいいと思うわけですが、なかなか難しいところがあると思うわけですが、そのような形がなるたけできるようしていきたいと思えます。

それと、3年計画が出て、1年ごとにローリングするわけですが、議員の皆さんの厳しい視線が注がれているわけで、その中でいろいろな話が出てくると思いますので、そのようなことを考えてやっていきたいと思っています。

- 5番（高柳孝博君） 漠然とした大きなこととお話していますので、わかりにくいのかと思います。例えば、重点プロジェクトについて絞ってお話させていただきますと、重点プロジェクトというのは、これが重点施策ということでしたので、民間でいうとこれが戦略にあたるのかなと思います。ちょっと官の戦略と民間の戦略とは切り捨てができないという点で大きく異なるのではないかと思うわけですが、一つは、具体的な例でいきますと、重点プロジェクトの

活力のところ、光り輝く人づくりプロジェクトというのがあります。この中では、定住を促進します、施策の中で外から人を呼び込もうというところは前からずっと言葉ではずっと言われてきていることだと思うんですが、実際に定住を促進しますといった時にそういうことを謳っているわけですね。定住を促進しますということに対してそれを達成するためにどういう施策があって、その施策は一つひとつその定住にどう効いてくるかというのを見ていかなければいけないと思うんですね。それがないと定住を促進しますといっているながら、何の策をやってもそれが良かったかどうかというのが見えないのではないかとこのように思うわけです。定住を促進するということで具体的に定住というのをどれだけやりたいか、目指すレベルがわからないと施策がいいかどうかわからないのではないかと思います。

例えば、3人を定住させるのと、10人を定住させるのでは違う施策になるというように考えるわけですが、そういう意味では、ある程度そのどれだけのレベルにしたいかというところがわからないと施策の良否というのはわからないのではないかと思います、その点はいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） この基本計画が10年ということで、人口が6200人余りでしたかね。それを7000人くらいにとどめたいというようなことで、さまざまな施策を打たなければならぬということですね。

そのためには、人口を減らさない施策を取らなければならないというんですけれども、じゃあ、空家対策で人を入れるか、産業の振興でどれだけ人を残せるかというところが、具体的な数字として上げることができない。一つひとつのものを積み上げていくというようなこととお話をされているのかなと思いますけれども、出来る施策はやる。定住促進については、先ほど藤井議員のご質問の中で町長の方から答弁がありましたけれども、空家の情報を提供した中で、外からの住民の皆さんに来ていただく、あるいは産業の振興、6次産業化を目指してそれに関わる人を増やしていく中で、人口ですか、若い方の働き場を増やしていく、そういうものを続けていながら、人口の減少の歯止めをかけていくということしか申し上げることができませんが、この施策で何人、何人ということで厳密にちょっと申し上げることができませんけれども。

○5番（高柳孝博君） 目標は何かといった時に、目標というのは、いつまでに何をどれだけというのはあると思うんですが、それがはっきりしていないということですから、基本的に施策をやった結果、何も受けなくても施策は良かった、万歳だったという話になりかねないと思いますので、そのあたりをしっかりとわかるようなものに作っていただけたらと思います。あまりそこだけこだわっても仕方がないので、次にいきます。

もう一つは、みんなでともに作ろうというところがあるわけですが、松崎らしいまちづくりを進めていくとことで、松崎らしいまちづくりというのはまずどうかが定義されていないと、何に向かっていくかということが良く見えないと思うんですが、そのあたりの松崎らしいまちづくりというのはどのようなものと考えているのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 総合計画の基本計画の質疑の際にもご回答したかと思うんですが、松崎町を持つ自然・文化・歴史、それらを活かしたまちづくり、箱ものを作っても、ほかの場所ではかなわないというものですから、松崎の持つ良さ、地域資源を活用したもの、それらを使ってまちづくりをしていく、そのためにも「日本で最も美しい村」連合への加盟を目指していくということでございますので、ほかにはないきらっと光るようなまちづくりをしていくということが基本にあると思います。

そのために地域住民の皆さんに積極的にまちづくりに関わっていただく、そのためにまちづくり委員会を発足いたしまして、いま勉強しているということになります。

○町長（齋藤文彦君） 私は花とロマンのふる里づくりということでまちづくりをやってきたわけですが、自分たち、松崎町がやってきた松崎らしい田舎づくりというのが松崎らしい田舎づくりは人づくりだというのが、他人の目から見て、どういうふうに見られているかということがありまして、私は「日本で最も美しい村」連合に参加をしたい。外から松崎が最も美しい村にふさわしいかということ審査してもらいたいと思ってやったわけですが、このようなことをやって、いま課長の方からまちづくり委員会ができたわけですが、31名の方が参加してくれて、いまいろいろ会議をやっていますけれど、なかなか新しい松崎に対していろいろな見識を持っていて、新しい格好ができるのかなと思っています。

その中で、一番印象に残ったのが、松崎の一番の財産は何だというような話になりまして、それで、松崎の一番の財産は危機感であるという話が出ました。それで、私も松崎町は本当にこれからちゃんとしないと厳しいぞということがありまして、このような考えの人と一緒にまちづくりをしていけば、そのような高柳さんのご質問に答えられるのではないかと考えています。

○5番（高柳孝博君） 松崎らしいというのは、たぶん複雑多岐にわたっているんだと思います。そういった点で定義するのは難しいかもしれませんが、各分野ごとに松崎はこうあるべきだというのがあってもいいのかなと思います。

施策をうった時に、それに向かって、本当にそれに向かっていい施策かどうかというのは向かう所がわからないと当然わからないわけですので、そのあたりが出て来るとわかるのかなと

思って、質問させていただきました。

あまり時間がなくなるといけないので、少し飛びますけれど、次に、安心・安全の住みよいまちづくりプロジェクトと2つ目にあるわけです。そのプロジェクトの中で、私が一つお尋ねしたいのは、防災・減災体制の強化というので、前からもこれは当然防災については自主防災組織とか、そういう町民一体となってということを何度も言われて進めてきているわけですが、私も以前BCP、いわゆる業務継続計画とか、あるいは避難所運営計画の策定について何回か質問をさせていただきました。

今後、第4次被害想定が出て来た時に、当然避難とか、事前の災害を防ぐ防災という意味でやらなければいけないことはたくさんあると思いますが、一方で、被災した時にどうするか、実際に福島とか、被災したモデルがあるわけですので、前回も一般質問させていただきましたが、被災した時にいかに立ち上げるか、あるいはいかに広域の協力をしていくか、そういったことも含めて防災の中でやっていただけたらと思うわけです。

そのBCPを作られるのかどうか、1点。それから、避難所運営計画というのを作られるのかどうか、いかがでしょうか。

○総務課長（金刺英夫君）　いくつかいまご質問をいただきましたけれど、第4次被害想定が6月に出るわけでございます。この第4次被害想定を基に町の方も防災計画を見直す形になります。当然その中で被災した時の対応とか、そういったこともあるわけでございますが、現時点では職員も被災時の対応、ボランティア活動とか、そういった講演もございまして、そういったところへ積極的に出向いて、研修を受けて、それらの対応をしていくような形で考えております。

BCPにつきましては、議員にこれまでも何回もご質問をいただいております。これも現在庁内で進めておりますし、県のアドバイスもいただきながら進めるような方向でおります。いずれにしましても、第4次被害想定がどういう形で当町に影響を与えるかということを見極めてからの判断になろうかと思っております。

○5番（高柳孝博君）　BCPは作っていただけるということですので、第4次被害想定が出た時にどういうのが出たかということになるわけですが、BCPについては、仮定で作ります。人数が何人来た時にどういうことができるか、一番最初に何をやるべきか、応急的にやらなければならない業務というのは、被害の規模に関係なく想定できる話ですので、ぜひそのあたりを作っていただきたいと思っております。

それから、避難所運営計画を作るかどうかという回答がなかったわけですが、自主防災組織



とやる時に、実際に自主防災の人たちが広域避難所とかに集まった時には、避難所を運営しなければなりません。その時に、誰が来るかはわからないんですけど、多分訓練をやる時には区長さんとかなんかがそこのリーダーになって、避難所の運営をやるという格好になっていると思うんですが、実際に被災した時には、人・物資・金がない時に、やっぱり避難所運営のプランというのがある程度あると迅速にできるものになると思いますので。

あるいは広域に支援を仰ぐ時にもわかりやすいのではないかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。

○健康福祉課長（石田正志君） 避難所の運営につきましては、12月に若干回答させていただきましたが、避難所計画は地域防災計画、その見直しの中で防災の方と検討して作っていききたいなど・・・、避難所の見直しも当然出て来ると思いますから、その中で福祉と防災の方と協議しながらやれば良いと思います。

○5番（高柳孝博君） 避難所運営も見直していただけるということですので、現在避難所運営を作られているかわからないんですが、私が見た限りでは、これというしっかりしたものはなくて、施設を使いますよという契約はありましたけれど、避難所を自主防災と施設を持っている方とどういうふうに運営していくのか、あるいは来た方をどういうふうに運営させていくかということではできていなかったように思いますので、ぜひ作っていただきたいと思います。

次に、3つ目の地域の魅力資源活用プロジェクトの関係ですが、この中で、農地を守り活かそうという中で、市民農園制度というのが出てくるわけですが、これについては、25年度には予算化があるのでしょうか。

○産業建設課長（菊池三郎君） プロジェクトの中にはそのような文言を入れてございますけれども、近隣で南伊豆とかが行っております。私どもの方でそういうような適地等があるのか、ないのか、いろいろ現在調査をしているところでございますので、予算的に計上してどうのこうのというところまいていませませんが、検討を加えていきたいと思っています。

○5番（高柳孝博君） 農地の話が出ましたけれども、農林漁業と商工業の連携というのがあるわけですが、6次産業化の推進というのを先ほどいろいろ出されました。特産品を作るとか、そういうものはあるんですが、今まで第4次の時も特産品を作って6次産業化しようというのは進めてきたわけです。その結果、林業がどれくらい振興してきたかというのをどう考えられているか、たぶん目標がないからそれが良かったかどうか・・・、とにかく体験学習というのはやりましたということはあるんでしょうけれど、実は、6次産業化が本当に施策がうまくいっているかどうかというのをみななければいけないですし、一方でいま世の中で言われているのが、

サステイナブルなライフスタイル、いわゆる持続可能なライフスタイルというようなことを言われてきたり、それから、新しい工業のあり方というのが出てきているわけです。

いま世界はボーダレスになって、物の生産自体が世界の中で作ろう、あるいは安い材料を求めて世界の中で材料を求めて作ろうという動きをしてきているわけです。そういったことの新たなチャレンジと言うんですか、そういったことも必要ではないかというふうに思うわけです。

それから、現実に製造業の方が例えばタイで船を造って、そこで安い賃金で造って日本に持ってくる。そういったこともいまなされているわけです。一方で個人が物を作るメーカーが変ってきている。実際に個人一人が設計をして、デザインして、実際に作るのは世界中の中で安いところを探して作る。

そして、材料も世界中の中で一番安い所を探して作る、そういったことがいまだんだん起きてきていて、現実に3Dのプリンターとかいうのが出てきていて、ほかのメーカーに頼まなくても自分でそれらしいモデルを作ることができる。そういった世の中になってきている。そうすると、そういったことに目指すという後継者育成という話が出てくるわけですが、その育成のあり方も6次産業だけではなくてメーカーのあり方そのものも変わってきている。

そういった中では、情報をうまく活用するという能力というのを求められてきます。これは一つの教育の問題かもしれません。あるいは今の3Dプリンターを使っただけの教育とか、そういったものも今後考えられていくのかもしれませんが、何か新たなそういった産業への挑戦というのはちょっと見えないように思いますので、そのあたりはぜひ挑戦して行って・・・、今回はそこまではいっていないと思いますけれど、総合計画そのものにそういった挑戦が出てきていませんから、たぶん実施計画の中にも盛り込まれていないと思うんですが、そのあたりの考え方はいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 農業関係の施策等々につきましては、実施計画の中でも上げさせていただいてある部分もございます。青年就農交付金あるいは後継者の関係、林業関係のものについてもあげてございますし、グリーンツーリズムのメニューもあげてございます。

ですから、ないというわけではございませんけれども、そういったものを重ねて産業を興していく、あるいは遊休農地の解消にかかるべく、いまハープの実証栽培ですとかを行っておりますので、そういうものは商品開発に繋げていければいいなというふうに思っております。

また、川のりなんかも栽培をやっていただいておりますけれども、そういうものが商品として世に出ていけば、より大きな効果が上がってくるのではないかというふうに理解しております。

○5番（高柳孝博君） 国の再生計画の中でも再生可能エネルギーというのを推進しようというのが出ているわけですね。その一方で新しい技術としてブルータワーというようなことが出てきています。これは木材のチップを使って発電すると同時に水素を生み出すというようなものなんです、そういったものもモデルとしてやろうとしているところがあります。

町は小さいので、そういった新開発というのは難しいかと思えますけれど、ある意味ずっと旧態依然の農業、旧態依然の製造というのを続けている限りは、それ以上のものは望めないわけで、新興国がまず発展しようとする時には最新型のものを求めようとするわけですね。わが国を見ても、明治維新の時に古いものを求めていったかというところではなくて新しいものを求めるわけですね。そういった意味では、今の町の・・先ほどの危機感というのが非常に町の皆さんが意識しているといった中で、それを解決するには旧態依然の考え方でいってはとても解決できないと思えますので、そのあたりも考えていただきたいと思えます。

次に、一人ひとりが魅力を伝えようという中で、特技などを人材バンクとして登録するということがあるわけですが、この人材バンクに登録するというところ、これは具体的に25年度には入っているのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） リストとして配るといようなものまでのものは考えておりませんが、体験指導者としてそういう指導ができる方々を養成していくとか、増やしていくというような形のものの取り組みはしていくことで考えております。

町長がいう高齢者の皆さんに生き生きと知恵と経験を活かしていただいて、いきいきとやっていたくためにはそういう先生になっていただくのも一つの方法であろうかと思えますので、そういう方を多く増やしていくということで考えております。

現在のところそのリストみたいなものを作って配布するところまでは考えておりません。

○5番（高柳孝博君） 町の中には、いろんな試みをしている方がたくさんいらっしゃるわけですね。商業もそうでしょうし、農業の方は実はいろんな試みをしていて、新しい農業というものもいろいろチャレンジしている方もいらっしゃいますので、その方が人材バンクとして活かされるのかなと思ったんですけど、そのあたりをできればネットワーク化して町の大きなうねりとして使えたらと思えますので、そのあたりをうまく使っていただけたらと思えます。

時間がありますから、次にいきたいと思えますが、2つ目の高齢者雇用促進の実施計画と事業計画をどのように考えるかということで、先ほどシルバー人材センターとか、そういったものが回答としてあったわけですが、高齢者というのは、必ずしも経済を背負うとか、そうい

うことではなくても、一つの生きがいとして仕事をしていく、そういった仕事のあり方というのもあると思います。

上勝町の皆さんも一つの葉っぱ事業を通して自分の生きがいになってやっているのではないかと思います。そういった意味で、高齢者の方のそういった取り組み、実際に町の中でも先ほどおっしゃられたようにたくさんの方がそういうのをチャレンジしているわけです。

前にもお話しましたが、高齢者に対しても消費型の社会福祉をするだけでは当然財政の方も尽きるわけですので、そういうことではなくて、健康になって働くようないろんな施策をされていると思いますけれど、高齢者が生きがいとしているそういったものに対する取り組みというのが、もう少し明確にしてあげて、参加していただく、サロンとかいろいろお話がありましたけれど、そういうのも社会に参加するという意味あるいは孤独にさせない、何かの生きがいを求めて働くという意味では、ただ仕事をして対価を得るというだけではなくて、そういったものに参加するのも大事だと思っていますので、そのあたりの取り組みが今までもされていますけれど、本当にそれでいいのか、今後の総合計画の中で、やって来た・・・、何回もそういうことは言われてきているわけですが、それが今までやってきたことが本当にいいのか、多分高齢者が何で働こうという目標もないでしょうから、それに向けてどれだけ進んできたかというのは言いにくいかもしれませんが、ある程度サロンならばサロンをどれだけ増やそう、あるいはサロンの参加者をどれだけ増やそうというような目標を持って進むくらいの明確さがあってもいいのではないかと思います。

一つは、あるサロンで私も福祉リーダーの養成講座というのを受けたわけですが、そういった中でおっしゃっていたのは、やはり後継者がいない。自分たちがサロンとか何かをやっても新しく入ってくる人がいないので、そこの盛り上がりが少ないというような話がありました。

これは行政が直接手を出してくことではないかもしれませんが、この言われている中でもサロンとかいろいろそういったものをもっと振興させていきたいと言っていますので、そのあたりの考え方、今年度の予算はどのようになっているのでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 予算のことは後から担当課に答えてもらいますけれども、昔松崎町は「オンリーワン」と観光協会がやっていて、いろいろ人気を博したわけですが、今度「人生の楽園」で蔵らさんが出た時に、非常に年をめした方がいろいろな作品を作って、その作品を販売していて、人生の糧になるということを言っていましたので、そのようなことが目に見えるような形にできればいいかなと思っていますので、ちょっと予算の話は担当課長の方からします。

○健康福祉課長（石田正志君） ご質問にありましたサロンとか、その関係につきましては、特に予算化というのはしておりません。これは、社協の事業として運営しているわけですが、その支援ということで、健康福祉課が関わっているような状況でございます。

また、事業の拡大ということですが、地区サロンは24年度につきましては、中川地区で1カ所、松崎地区で1カ所開催していると思います。それを社協と健康福祉課で話し合って拡大しようという話をしておりまして、25年度につきましては、目標としましては、岩科、三浦にも1カ所ずつということで考えておりますが、これが自主的に今年度の傾聴ボランティアの養成講座ということをやりました。その参加している方が、聞いている話では、来年度自主的に岩科地区で単独の山口・峰区において、そういったサロンのようなものを作りたいという計画を持っているということで、参加されている方がそういった意欲を持って活動を広めてくれるということで、その支援をしていきたいということで考えております。

○5番（高柳孝博君） 実は、いま高齢者、高齢者と言っているんですが、いま若い人たちもやがて高齢者になるわけです。高齢者になった時に、高齢者であっても生きがいを持って、本当に感動を持ってやれるんだというモデルを作らないと次世代も希望が持てないんじゃないかと思うわけです。

そういった意味で、高齢者がいきいきと働ける、あるいはいきいきと何かに参加する。そして、孤立化させない、そういったことは大切だと思っていますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

次に、体験型観光と6次産業化への・・・、このところですが、一つは、今までやってきた中がうまくいっているのかどうかというのは、体験型学習で交流だけで本当にうまくいくのかどうかというのが一つあります。ここでももちろん増やすことが必要なんです、それも今まで続けた中で目標とすることがはっきりしていないので、どこまで達成したかというのは言いにくいかもしれませんが、要は、プロセスが質と量でわかるようになっていないと結果に結び付いたかどうかというのはよくわからないと思います。

だから、そういった意味では、先ほどから申し上げておりますように、どのような質にもっていったらいいか、あるいはどのような量をやったらいいかというのをある程度ははっきりさせてやるというのではないかと思います。

例えば、体験型観光で学習をやるわけですが、昨年は例えば3回やったとします。3回やったら、例えば1人が定住するようになったとかいうことがあるとすれば、では、来年はもっと6回やってみようとか、量の面ですよね。

そういった新しい考えというのも出てくるのではないかと思います。数値化するのは難しいかもしれませんが、目標というのは別に達成しなかったからどうのこうのではなくて、目標に向かってやっているその施策が良かったかどうかを見る手段でもあると思います。

そういう意味では、体験型学習をやるのであれば、今年何回やってみようというようなことをやってみて、何回が本当にできたのかどうか、あるいはその予算で良かったのかどうか、そういったものが見えるようなものやっていくべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 体験型学習というか、修学旅行の関係ですが、岩地地区で受け入れを行っておりまして、これまで多い時で10校、1700人くらいの受け入れをしたわけでございます。

それがだんだんだんだん少なくなる。受け入れの窓口の問題等で少なくなっているわけでございますけれども、それをまた振興公社を中心に子ども農山漁村交流プロジェクトを活用しながら、また増やしていくというようなことの中で、それは現在進めておりまして、25年度わかっている段階で、6校、1000人くらいの来町があると伺っております。そういう面では、子どもたちが松崎町に訪れていただいて、この経験をまた将来松崎町に来るきっかけにいただければと思っております。

それから、体験メニューの関係につきましては、いろいろ美術館あるいは重要文化財岩科学校あるいは個人の方でやっていたメニューもございます。それらを当然内容なんかを良く考えていかなければなりませんけれども、そういうものを通じて増やしていくというようなことです。

定住の関係については、先ほど田舎ぐらし応援ツアーというようなものの開催も行っておりますが、具体的にその定住するまでに至るには、なかなか生計をここで立てていかなければならないという問題もありますので、簡単にはいかないかなと思いますけれども、それでも、そういうものを通じて松崎のファンを作る、それで何回も来ていただくというようなことを考えているところでございます。

○議長（斉藤 重君） 時間延長しますか。

○5番（高柳孝博君） まとめます。

実は、6次産業化もいろいろな特産品を作るという動きがたくさんあるわけですよね。現在どういう動きがあって、それが実を結んだかというのもやはり一つの目標になるのではないかと思います。

それと、もう一つ、6次産業化だけではなくて、ほかの事業も進めようとしている方もいらっ

しゃるわけですので、そのあたりもしっかり把握して、町ができるのはたぶん法の整備と支援のところ、補助金とかそういった支援になると思いますけれど、そういったものも今後考えていっていただけたらと思います。

実際にいろんなところで新しい芽が出てきていますので、ここでどことは言いませんけれど、その方たちが実際に事業としてやろうとしている方もいらっしゃるわけですので、そういった方にどのような支援ができるかというのを情報等をしっかりつかまえて、今後の町の新しい産業となり得るところもありますから、そのあたりもしっかりつかまえていただきたいと思います。

先ほど作らないということでしたけれど、できれば実施計画のところを実際の基本計画のところとリンクさせて、成果が見えるような格好にしていきたいと思います。それをお願いして、私の質問を終わります。

○議長（斉藤 重君） 以上で高柳孝博君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時47分）

---